

媒体名	ヘルスライフビジネス	掲載日	2008年1月1日
タイトル	第三世代プロバイオティクス「プロピオン酸菌」		

第三世代 プロバイオティクス 「プロピオン酸菌」

ニュートリション・アクト

ニュートリション・アクト(東京都港区、〒03-5475-7313)は、乳酸菌、ビフィズス菌に続く第三世代プロバイオティクス「プロピオン酸菌」を上市する。

プロピオン酸菌は、牛乳由来の新規有用菌であり、エメンタルチーズなどアルプス地方のハードタイプのナチュラルチーズに含まれる食経験の長い、安全な食品素材。アルプス地方の伝統的チーズの健康効果解明が進んでいるが、仏リール大学アンリ・ベーレン教授は、これらのチーズ製造で使われるプロピオン酸菌が腸内のビフィズス菌を顕著に増殖させることを発見している。

TANADA社の製品を取り扱う。STANADA社は、400種のプロピオン酸菌株自社ライブラリーの中から、10年の開発期間をかけ、乳製品の世界的な研究機関である仏国立農学研究所(INRA)レンヌとの共同研究により、腸内のビフィズス菌フローラの増殖効果を持つ菌株コンプレックス(SI41/26)を開発し、これをPROPIOFIDUS(PF菌)と命名、02年に世界で初めてサプリメントとして商品化している。

PF菌は、体内のビフィズス菌増殖、便秘・神経性下痢への効果、腸内でのB12・葉酸の代謝・産生、CLA(環状リノール酸)の産生、ミネラル類の腸管での吸収促進などの効果を有する。さらに、天然抗菌物質産生による病原菌・ウイルスの抑制、免疫調整、アポトーシス誘導による大腸がん抑制、抗腫瘍・抗感染、コレステロール抑制などの効果が期待されるといえる。これらの効果が基礎研究で確認され、今後プロバイオティクスの新分野を形成することが期待される。